

カキを主とする二枚貝中の ノロウイルス

微生物・ウイルス合同専門調査会

専門委員 西尾 治(グループ座長)

ノロウイルスの特徴

以前小型球形ウイルス(SRSV)
と呼ばれていた

ヒトの腸管上皮細胞でのみ増殖、食品、環境中で
増殖しない

患者のふん便・吐物から大量にウイルス排出
ふん便中への排出は10日間程度持続

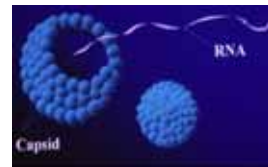
感染性は自然界で長期間持続

感染力が強く、10個程度で感染・発病

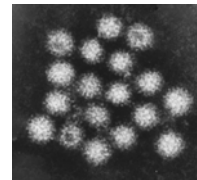
熱、アルコール等に強く、不活化が難しい

感染後の獲得免疫は弱い

遺伝子型が多いことから何度でも感染

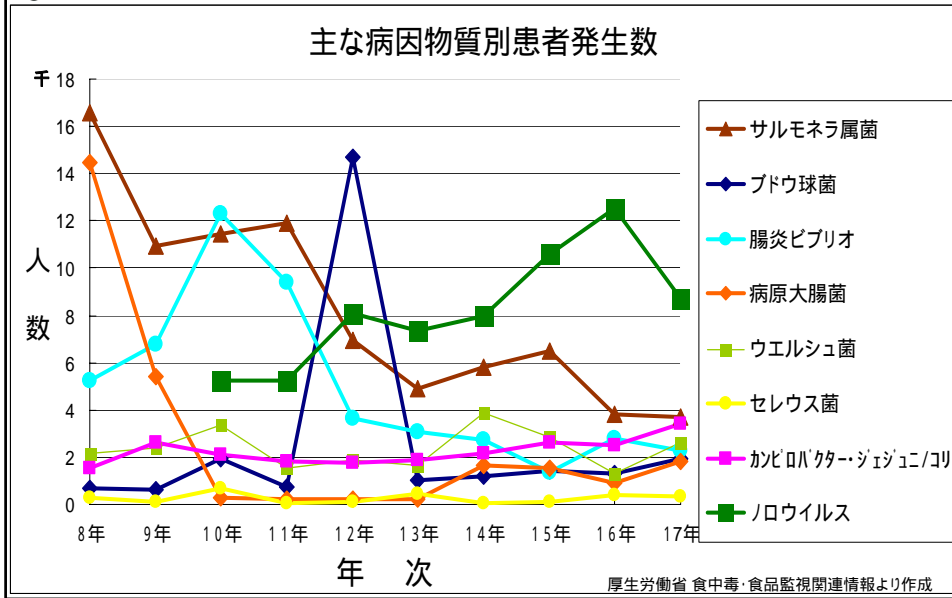


粒子模型

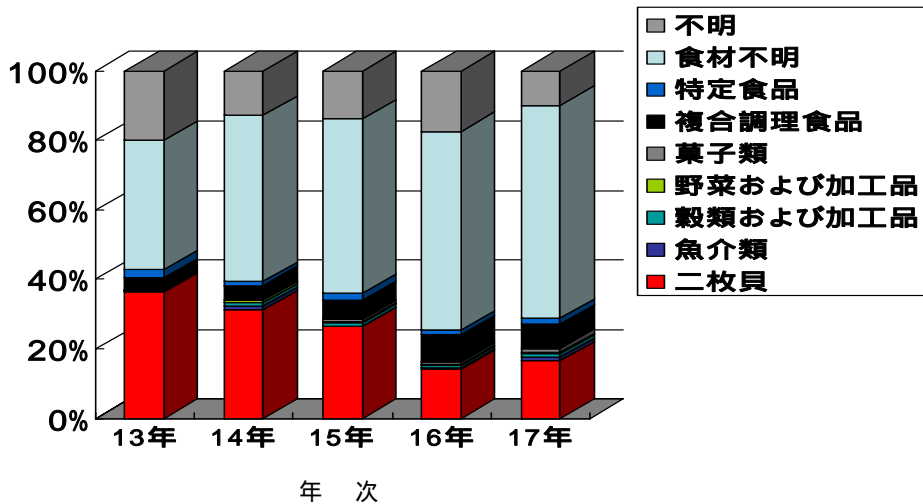


電顕写真

年別の食中毒病因物質別患者数



ノロウイルス食中毒の原因食品別発生事件数



ノロウイルスによる健康被害

感染性胃腸炎を起こす

小腸でウイルスが増殖することから、水様性の
下痢症状を起こす



食べものを腸に送る胃の運動神経が
麻痺し、嘔気・嘔吐を起こす

嘔吐は突然、急激・強烈に起きる

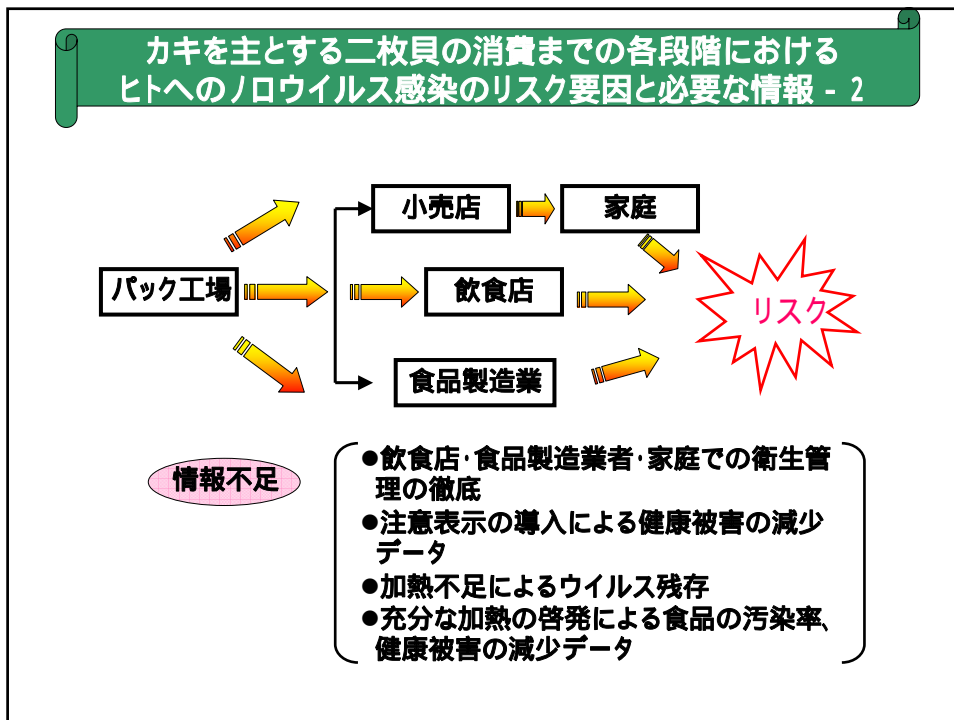
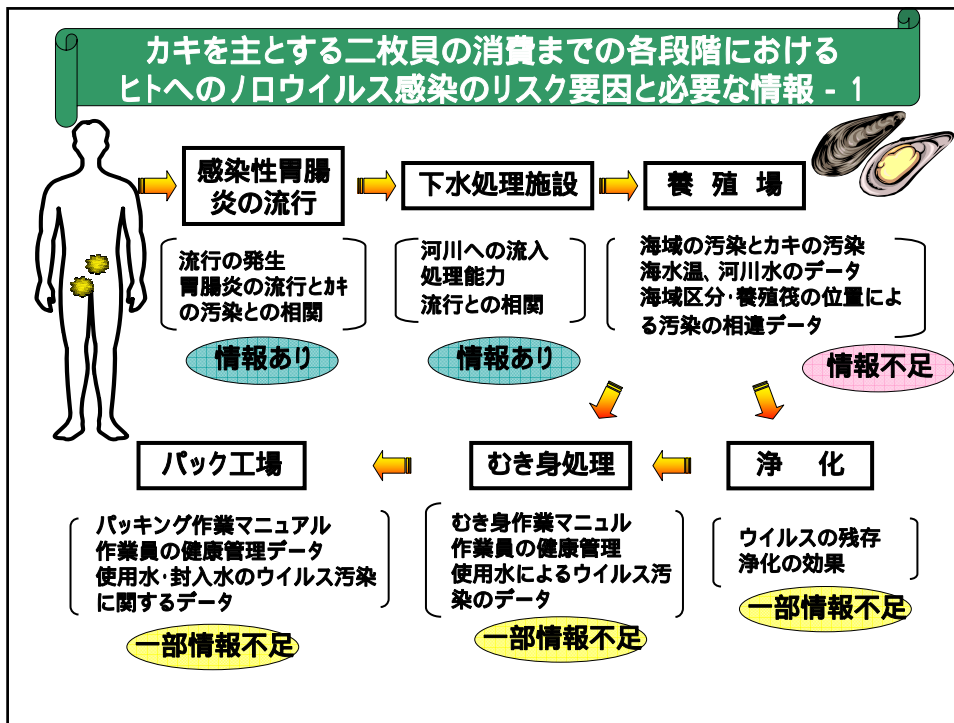
通常、1～3日で治癒する

但し、乳幼児、高齢者等の抵抗力の弱いヒトは
重症化(脱水症状)することがあるので要注意

ノロウイルスによる食中毒患者では死亡例はない

カキの汚染様式





評価を進めるための情報と課題

カキの流通を通しての科学的知見が不足

カキの生産から消費の段階で、管理措置を講ずることによりどの程度効果が得られるのかの情報不足

養殖海域での海域ごと科学的データが不足

今後、必要なデータの収集を行っていく

H18から食品健康影響評価技術研究を実施中